

グローバルな視点から取り組む地域づくり ～「里山お寺コンサート in Tsukuba」を事例に～

筑波総研株式会社 研究員

富山 かなえ

1. はじめに

「地域づくりは、人づくりから」といわれて久しい。1人ひとりの思い、知識やネットワークを活かすことで魅力あるまちがつけられていく。

本編の舞台は、筑波山麓の美しい里山が残るつくば市国松地区。地区内にあった唯一のコンビニは閉店し、小学校も来春には閉校が予定されるなど過疎化・高齢化が進んでいる。

今回お話を伺ったのは、この地区に暮らしながら外務省大使として世界を飛び回る岡田誠司氏である。「過疎化が進みながらも、豊かな里山の中で暮らす人々に元気になってもらいたい」という思いで地域づくりに取り組む姿を取材した。

2. 「日本の素晴らしい文化や芸術を伝えたい」

2017年5月20日（土）、この地区で古くから住民の拠り所として親しまれてきた国松山万貫院性山寺で「里山お寺コンサート in Tsukuba」が開催され、多くの人が感動に包まれた。

コンサートの発案者は、この地で育ち現在も居を構える岡田氏である。岡田氏は2016年3月までカナダのバンクーバー日本総領事館に総領事として勤務していた。現在は、東京の外務省で中東・アフリカ問題を担当する大使として勤務している。

総領事としてバンクーバーに勤務していた時の仕事は、日本政府と駐在国政府との間における様々な外交問題に取り組むほか、日本の文化や芸術を現地の人に伝え日本を理解してもらうこと、そのためにいろいろなイベントを企画、開催することなど幅広い。

岡田氏はバンクーバー駐在時につくばみらい市出身の津軽三味線奏者・山口ひろし氏とカナダ在住のギタリスト・中島有二郎氏のコラボコンサートを開催した。珍しい取り合わせの音色は、現地の人々の心をつかみ大変な喝采を受けたという。

帰国後、岡田氏は日々過疎化が進む地区の様子

を肌で感じ「歴史のあるコミュニティを元気付け、地域の交流も活性化させたい」と考えた。

そして、「今まで世界中の人に日本の素晴らしい文化や芸術を伝えてきたように、自分が住む地区でコンサートを開き、地域の方々にも同じように伝えていきたい」という思いが芽生えたという。

岡田氏はサックス演奏が趣味で、さらに腕前もプロ級ということからも、音楽が持つ可能性を大いに感じていたに違いない。

3. お寺の本堂がコンサート会場

岡田氏はコンサート開催にあたり、性山寺の小野村住職に相談した。すると住職は「地区の活性化のために」という岡田氏の思いに共感し、快く本堂を開放してくれたという。そして、発案から数カ月後の2016年11月、岡田氏は第1回「里山お寺コンサート」を開催した。

当日、本堂は山口氏の津軽三味線、中島氏のギター、石川智氏のパーカッションという異色のメンバーが奏でる音色に包まれ、老若男女、腰が曲がったご年配の方までもがスタンディングオベーションという大成功を収めた。

参加したおじいちゃんやおばあちゃんからは「国松地区にこんなに人が集まっているのを見たのはいつぶりだろう！」「次はいつ開催してくれるのか」と継続開催への期待も寄せられた。

4. 「次はいつ？」住民の声に応え、2回目の開催

岡田氏は今後の継続的な開催も視野に入れ、区長の岡田実氏をはじめ多くの人たちの協力を得ながら「春うらら里山お寺コンサート実行委員会」を立ち上げ、開催に向けて再スタートした。

そして、2017年5月、昨年と同様に性山寺において「里山お寺コンサート」を開催し、午前の部に80名以上の地区住民が、午後の部は約100名の一般参加者が本堂に集った。

出演者は山口氏（下図左）とピアニストで作曲家の木原健太郎氏（下図右）。木原健太郎氏は、山口ひろし氏同様、岡田氏がバンクーバー総領事の時に、コンサートのために招聘したジャズピアニストで、能とジャズピアノのコラボレーション、日本の唱歌をジャズに取り入れる取り組みなどを行っている気鋭の音楽家だ。

この2人によるユニットは、この日のために入念に練習を重ねた美しい音色で会場を沸かせた。



■コンサートの様子

曲目は、津軽三味線の奏でる津軽じょんから節の日本古来のダイナミックな旋律にピアノのジャジーなサウンドがからみあい、またピアノの奏でる日本の唱歌のやさしい調べに津軽三味線の繊細な音が寄り添い、オリジナルの曲では、ピアノ、三味線がそれぞれに助奏し合い、2人の世界観を存分に味わえるものだった。

出演者の組み合わせは、第1回のコンサートに岡田氏が木原氏を招待し、2人を引き合わせたことから始まった。山口氏の従来の津軽三味線の枠を超えた演奏を聴いた木原氏の「次回開催時は、ぜひ津軽三味線とピアノのコラボ演奏がしたい」という提案から生まれたものであった。

5. 地元企業の協力を得る

岡田氏は2回目のコンサートでピアニストを招くにあたり、「どうやってピアノを本堂に用意しようか」と頭を悩ませたという。

そこで、地域に寄り添う取り組みが評判の筑波銀行に相談したところ、後援団体寄贈のグランドピアノの貸出と設置費用の協力を得ることができた。

岡田氏は「筑波銀行のような地元企業のCSR活動の協力がなければ今回のコンサートを開催することは困難であり、本当に感謝しています」と語った。



■参加者の前で挨拶をする岡田氏

コンサート当日は、筑波銀行藤川頭取をはじめ筆者を含む銀行関係者も参加し、新緑まぶしい里山の静かなお寺の本堂で、世界的に活躍する2名の演奏に耳を傾け、素晴らしい時間を過ごすことができた。

また、コンサート終了後には、茨城県出身の山口氏の活躍に対し、山口茨城県副知事より「いばらき大使（※）」の委嘱状交付式も行われた。

6. おわりに

この取り組みは、地区住民が「新たな喜び」や「生きがい」そして「場所は不便かもしれないが、ここには美しく豊かな自然と暮らしがある」という気づきと郷土愛の醸成につながっている。

これからも、岡田氏のように熱い思いを持ち、地域住民を巻き込みながら、自分の住む地域の活性化に挑む「まちづくりの仕掛け人」が増えていくことを願っている。



■左から、ピアニスト・木原健太郎氏、三味線奏者・山口ひろし氏、茨城県副知事・山口やち彥氏、筑波銀行頭取・藤川雅海氏、外務省大使・岡田誠司氏、地区会長・岡田実氏

※いばらき大使：各界で活躍している茨城県出身者あるいは茨城県にゆかりのある人で、県外居住者を対象に委嘱し、様々な機会を通じて茨城県の魅力や良さを広く県外にPRしていく取り組み（出典：茨城県）